

〈研究主題〉

(4) 「心豊かに、よりよく生きようとする生徒を育てる道德教育」 —豊かな体験活動を通して—

黒滝村立黒滝中学校

1 学校の概要

(1) 地域の特性

本村は奈良県のほぼ中央に位置し、林業・林産加工をおもな産業としているが、近年第3次産業への就業人口の割合が増加してきており、観光施設の整備充実とともに観光の村として躍進している。本校は、本村の西方の黒滝川沿いに位置しており、唯一の中学校である。村の教育に対する熱意は強く、特に、学校・園への教育・環境整備には力を入れている。

(2) 生徒の実態

本校の生徒は、豊かな自然と地域の人々の温かい愛情につつまれ、家族的な雰囲気の中で伸び伸び育っている。全体的に明るく、物事を素直に受け止め行動することができる反面、幼児期より限られた人間関係の中で育っているため、競争心や自己主張しようとする力が弱く自分の殻から脱け出そうとしないところも見られる。生徒が自ら考え、体験を通して学んだことを自信をもって表現できる能力を育成することが課題である。

(3) 教育目標

① 本校の教育目標

自他を愛し、心豊かな生徒を育てる。

- 豊かな心を持ち、支え合いながら、自己実現をめざす生徒を育てる。
- 真理を求め、自律した生き方をする生徒を育てる。
- たくましい心と体で、最後までやりぬく、ねばり強い生徒を育てる。

② もとめる生徒像

- たくましい心と体の生徒
- 自他を大切にする生徒
- 深く考える生徒

(4) 主題設定の理由

昨今、テレビや新聞の報道で道德教育の重要性が叫ばれている。また、「これからの教育には『生きる力』の育成が不可欠である」という言葉もよく耳にする。本校では、「心豊かに、よりよく生きようとする生徒を育てる」を研究主題とし、変化の激しい社会において、いかなる場面でも他人と協調でき、自律的に社会生活を送ることができるような生徒の育成を図ってきた。

また、昨年度からはボランティア協力校としての指定を受け、ボランティア活動を学校教育に位置付けることで更にその充実を図ろうと考えた。

豊かな体験は、生徒の内面に根ざした道德性の育成に資するものではあるが、これらの体験の中で生徒が気付く様々な道德的価値について考える道德の時間の指導を通して、より確かな道德的実践力として定着すると考える。そこで、本主題を決定し、他の教育活動で行う体験活動と道德の時間を密接に関連させ、心に響く多様な指導の工夫を図りながら主題に迫っていきたい。

2 研究課題

- 学校における様々な体験活動を道徳性の育成という視点から見直すとともに、学校や地域の実態を踏まえ、学校と家庭、地域と連携しながら、ボランティア活動や自然体験活動等の豊かな体験活動の充実を図り、生徒の内面に根ざした道徳性の育成を目指す。
- 様々な体験活動と関連を図った心に響く道徳の時間の指導を工夫することにより、道徳的価値の自覚を一層深め、生徒の道徳的実践力を育成する。

3 研究の特色及び概要

(1) 研究のあゆみ

月 日	内 容	講師、参加人数
平成16年 5月21日	計画案（文部科学省指定）立案	
6月9日	「道徳の時間」の授業について研修	大西指導主事
7月29日	県教育課程研究会道徳部会	2名参加
8月9日	鳥取県道徳教育研究大会（倉吉市）	1名参加
8月30日	県道徳教育夏期研修会（奈良市）	3名参加
10月13日	職員研修「道徳教育とカウンセリングマインドについて」	池島先生
10月20日	研究授業 1年	大西指導主事
11月19日	近畿道徳教育研究会（神戸市）	2名参加
11月24日	研究授業 2年	松岡指導委員
12月6日	道徳教育講演会（生徒・職員）「お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい」から学ぶ心	向野幾世先生
1月11日	道徳教育講演会（地域・保護者・生徒・職員）「地域で思いやりの心を育む人権講座」	露の新治さん
1月30日	先進校視察（亀岡市）	3名参加
3月9日	今年度の取組の反省と来年度に向けての研修	島指導主事
平成17年 4月19日	昨年度の取組と今年度の計画についての研修	校内研修
6月29日	職員研修 研究授業（2、3年）の指導案検討	校内研修
7月5日	職員研修 研究授業（1年）の指導案検討	校内研修
7月6日	保護者及び地域の方々への公開授業 2年及び3年	荒木指導主事
7月13日	保護者及び地域の方々への公開授業 1年	島指導主事
9月28日	職員研修 研究発表に向けて	荒木指導主事

(2) 具体的な取組

1年生の取組

○第1次 トイレの話 《道徳》 内容項目4-(3)

全校生徒が30名足らずの黒滝中学校に、車いすの生徒がやってきたらどうなるか。障害者の視点に立って環境や設備を考えることで、障害者問題を考えるきっかけとした。

○第2次 ディサビリティ・スポーツの可能性《国語》

障害者のスポーツが、本来リハビリテーションの目的で始められたことと、それによって、多くの障害者が生きがいを持って生活できるようになったと感じていることを学んだ。

○第3次 車椅子からのVサイン《道徳》 内容項目1-(2)

シドニーパラリンピックに出場した根木氏の姿を追いながら、困難に立ち向かう勇気や、目標をもって生きることのすばらしさ、仲間の大切さなどについて考えた。

○第4次 パラリンピックから学んだこと《学活、文化祭》

パラリンピックの種目を調べ、多くの工夫がされていることを知った。また障害者問題として、黒滝村の公衆トイレが障害者に対して優しいものかどうかを調べ、【障害者マップ in 黒滝】を作成し発表した。さらにパラリンピックの種目「ゴールボール」をクラス全員で体験し、文化祭でも紹介した。

○第5次 お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい《道德》 内容項目4-(4)

生徒が書いた読書感想文と「おかあさん、ぼくが生まれてごめんなさい」の詩から、障害者問題について考え、差別や偏見のない社会を作ることの大切さを学んだ。

○第6次 「お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい」から学ぶ心《講演会》

向野幾世先生を講師にお招きし、「おかあさん、ぼくが生まれてごめんなさい」の主人公やっちゃんやその仲間の話を聞かせていただいた。

2年生の取組

○ 事業所訪問〔徳田銘木㈱〕

2学期の「職場体験学習」に向け、村の伝統産業のひとつ、磨き丸太製造工場を訪問した。杉や桧を中心とした原木から様々な製品が長い年月と職人の技術によって作り出されていく過程を教えていただいた。

村内には10数軒の銘木産業の事業所と多くの木材加工業の事業所があり、家業が木材加工という生徒や家族が従事しているという生徒もいるが、「実際に磨き丸太に触れ、製品の数々を目にしたのは初めて。」という生徒が多かった。工場内で働く人々の姿やできあがった製品の美しさに、生徒たちは真剣な眼差しで見入っていた。

生徒の感想文から《抜粋》

- ・10メートル以上もあるまっすぐな磨き丸太が沢山並べられている光景に圧倒された。僕たちは『黒滝の特産品は磨き丸太です。』なんて簡単に口にするけど、実はほとんど知らなかったということが分かって少し恥ずかしい気がした。
- ・工場見学の後社長室に招かれ、林業や銘木産業のことをいろいろと教えていただいた。何十年もかけていろいろな世話をして原木を育てることの大変さ。台風などの自然災害との戦い。不景気と林業全体の後継者不足など課題が山積みになっていることを知った。職場体験でお世話になる事業所でも、それぞれいろんな課題があるのだろうなと思った。

○ 職業体験学習

事業所訪問が済み、いよいよ職業体験学習に向けての取り組みが始まった。6月の後半には12名の生徒の受け入れ事業所が確定し、依頼や交渉を開始した。夏休みに入る前には、生徒それぞれがお世話になる事業所に依頼の手紙を送り、9月の本番に備えることができた。

生徒の体験作文より《抜粋》

・ 黒滝村立黒滝幼稚園

園児たちと一緒に遊んだことや給食を食べたことが楽しかったです。でも、園児が泣いているのを見るのは辛かったです。先生方は常に園児たちが喜ぶようなことを考えておられることがすごかったです。3日間で私たちが学んだことは、「積極的にならないと何も始まらない。」ということです。



・黒滝村社会福祉協議会

入浴介助で、お年寄りの体を洗ってあげることができたことが一番印象に残っています。体験は、やるべきことがあるときはとてもたくさんあって、とても忙しい思いをしました。

でも、職員の方々は何をするのにも手際よく、決められた時間内にたくさんのことをこなしておられたのはすごいと思いました。私はこの職場体験で、仕事がどれだけ大変かということと、お礼を言ってもらえたときの喜びの大きさを学べたと思います。

・中吉野広域消防組合黒滝出張所

放水訓練や救助訓練など消防士の仕事を体験し、仕事の辛さが分かったのと同時に、大変な（しんどい）訓練をやり遂げたという達成感を感じました。本物の消防士の方たちと一緒に「人命を救う」ための訓練ができ、僕たちも「人のためになれる職に就けたらいいな」と思いました。

3年の取組

○ 年間指導計画

年間指導計画の改良（学校行事とのリンクができるように工夫した。）

月	主題名	お	ら	い	展	料	内容概要	出典書	備	考	単上の関連								
											学校行事	行事・イベント等	総合的な学習の時間	学業	人権学習	性教育			
4	人生を切り開く	高度・高度を求め、自分の人生を切り開いていこうとする意欲を培う。	進はいつも繰り返されている	4-143	副読本	「人生100年」	「人生100年」	「人生100年」	「人生100年」	「人生100年」	「人生100年」	「人生100年」	「人生100年」	「人生100年」	「人生100年」	「人生100年」	「人生100年」	「人生100年」	
	礼儀の重視	礼儀の重視を理解し、時と場合に応じた適切な言動がとれる態度を養う。	いただきます	2-143	副読本	「いただきます」	「いただきます」	「いただきます」	「いただきます」	「いただきます」	「いただきます」	「いただきます」	「いただきます」	「いただきます」	「いただきます」	「いただきます」	「いただきます」	「いただきます」	
	強い意欲	勉強と関係をもとめて、おぼろげな目標を達成し、やりぬく強い意欲を養う。	やさしいらね	4-143	副読本	「やさしいらね」	「やさしいらね」	「やさしいらね」	「やさしいらね」	「やさしいらね」	「やさしいらね」	「やさしいらね」	「やさしいらね」	「やさしいらね」	「やさしいらね」	「やさしいらね」	「やさしいらね」	「やさしいらね」	
5	家族愛	父母への感謝と敬愛の心を養い、家族の一員としての責任を養う。	ママの笑顔	4-143	副読本	「ママの笑顔」	「ママの笑顔」	「ママの笑顔」	「ママの笑顔」	「ママの笑顔」	「ママの笑顔」	「ママの笑顔」	「ママの笑顔」	「ママの笑顔」	「ママの笑顔」	「ママの笑顔」	「ママの笑顔」	「ママの笑顔」	
	もとの大切	もとの大切さを理解し、大切にすることを心掛ける。	もとの大切	4-143	副読本	「もとの大切」	「もとの大切」	「もとの大切」	「もとの大切」	「もとの大切」	「もとの大切」	「もとの大切」	「もとの大切」	「もとの大切」	「もとの大切」	「もとの大切」	「もとの大切」	「もとの大切」	
	贈る心	贈る心を理解し、他人に贈る喜びを体験する。	贈る心	2-143	副読本	「贈る心」	「贈る心」	「贈る心」	「贈る心」	「贈る心」	「贈る心」	「贈る心」	「贈る心」	「贈る心」	「贈る心」	「贈る心」	「贈る心」	「贈る心」	
6	生命尊重	かけがえのない命を尊重し、生命の尊厳を大切にする。	かけがえのない命	4-143	副読本	「かけがえのない命」	「かけがえのない命」	「かけがえのない命」	「かけがえのない命」	「かけがえのない命」	「かけがえのない命」	「かけがえのない命」	「かけがえのない命」	「かけがえのない命」	「かけがえのない命」	「かけがえのない命」	「かけがえのない命」	「かけがえのない命」	
11	偏見や差別のない社会	偏見や差別のない社会を築く。	偏見や差別のない社会	4-143	VTR	「偏見や差別のない社会」	「偏見や差別のない社会」	「偏見や差別のない社会」	「偏見や差別のない社会」	「偏見や差別のない社会」	「偏見や差別のない社会」	「偏見や差別のない社会」	「偏見や差別のない社会」	「偏見や差別のない社会」	「偏見や差別のない社会」	「偏見や差別のない社会」	「偏見や差別のない社会」	「偏見や差別のない社会」	
	正しい個性理解	個性を理解し、個性を尊重する。	正しい個性理解	2-143	副読本	「正しい個性理解」	「正しい個性理解」	「正しい個性理解」	「正しい個性理解」	「正しい個性理解」	「正しい個性理解」	「正しい個性理解」	「正しい個性理解」	「正しい個性理解」	「正しい個性理解」	「正しい個性理解」	「正しい個性理解」	「正しい個性理解」	
12	責任ある態度	責任ある態度を養う。	責任ある態度	4-143	副読本	「責任ある態度」	「責任ある態度」	「責任ある態度」	「責任ある態度」	「責任ある態度」	「責任ある態度」	「責任ある態度」	「責任ある態度」	「責任ある態度」	「責任ある態度」	「責任ある態度」	「責任ある態度」	「責任ある態度」	
	愛国心	日本の文化や歴史を愛し、愛国心を養う。	日本の文化や歴史	4-143	副読本	「日本の文化や歴史」	「日本の文化や歴史」	「日本の文化や歴史」	「日本の文化や歴史」	「日本の文化や歴史」	「日本の文化や歴史」	「日本の文化や歴史」	「日本の文化や歴史」	「日本の文化や歴史」	「日本の文化や歴史」	「日本の文化や歴史」	「日本の文化や歴史」	「日本の文化や歴史」	
1	ふるさとへの愛	ふるさとへの愛を養う。	ふるさとへの愛	4-143	副読本	「ふるさとへの愛」	「ふるさとへの愛」	「ふるさとへの愛」	「ふるさとへの愛」	「ふるさとへの愛」	「ふるさとへの愛」	「ふるさとへの愛」	「ふるさとへの愛」	「ふるさとへの愛」	「ふるさとへの愛」	「ふるさとへの愛」	「ふるさとへの愛」	「ふるさとへの愛」	
	国際協力	国際協力を理解し、国際協力を推進する。	国際協力	4-143	副読本	「国際協力」	「国際協力」	「国際協力」	「国際協力」	「国際協力」	「国際協力」	「国際協力」	「国際協力」	「国際協力」	「国際協力」	「国際協力」	「国際協力」	「国際協力」	
1	人権の尊重	人権の尊重を理解し、人権を尊重する。	人権の尊重	4-143	副読本	「人権の尊重」	「人権の尊重」	「人権の尊重」	「人権の尊重」	「人権の尊重」	「人権の尊重」	「人権の尊重」	「人権の尊重」	「人権の尊重」	「人権の尊重」	「人権の尊重」	「人権の尊重」	「人権の尊重」	
	農田生産の向上	農田生産の向上を推進する。	農田生産の向上	4-143	副読本	「農田生産の向上」	「農田生産の向上」	「農田生産の向上」	「農田生産の向上」	「農田生産の向上」	「農田生産の向上」	「農田生産の向上」	「農田生産の向上」	「農田生産の向上」	「農田生産の向上」	「農田生産の向上」	「農田生産の向上」	「農田生産の向上」	
2	温かい人間性	温かい人間性を養う。	温かい人間性	2-143	副読本	「温かい人間性」	「温かい人間性」	「温かい人間性」	「温かい人間性」	「温かい人間性」	「温かい人間性」	「温かい人間性」	「温かい人間性」	「温かい人間性」	「温かい人間性」	「温かい人間性」	「温かい人間性」	「温かい人間性」	
	誇りある生き方	誇りある生き方を養う。	誇りある生き方	4-143	副読本	「誇りある生き方」	「誇りある生き方」	「誇りある生き方」	「誇りある生き方」	「誇りある生き方」	「誇りある生き方」	「誇りある生き方」	「誇りある生き方」	「誇りある生き方」	「誇りある生き方」	「誇りある生き方」	「誇りある生き方」	「誇りある生き方」	
3	虚勢の克服	虚勢の克服を推進する。	虚勢の克服	4-143	副読本	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	
	学校の一員としての誇り	学校の一員としての誇りを養う。	学校の一員としての誇り	4-143	副読本	「学校の一員としての誇り」	「学校の一員としての誇り」	「学校の一員としての誇り」	「学校の一員としての誇り」	「学校の一員としての誇り」	「学校の一員としての誇り」	「学校の一員としての誇り」	「学校の一員としての誇り」	「学校の一員としての誇り」	「学校の一員としての誇り」	「学校の一員としての誇り」	「学校の一員としての誇り」	「学校の一員としての誇り」	
3	虚勢の克服	虚勢の克服を推進する。	虚勢の克服	4-143	副読本	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」
	虚勢の克服	虚勢の克服を推進する。	虚勢の克服	4-143	副読本	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」	「虚勢の克服」

プレゼンテーションを使った道徳の授業 資料名 ライオンの井戸

(3) 体験活動の充実—資料 6

- 学校行事関係（誠心会交流グランドゴルフ）— 平成16年11月4日(木) 実施

村にある誠心会（大半が高齢者である）と生徒会が交流グランドゴルフ大会を企画したところ、生徒28名に対して約80名の老人会の方々の参加があり盛大に行われた。

～生徒の感想文から～



日頃あまりお年寄りとふれあう事はないので、今回のグランドゴルフ大会はすごくいい機会だったと思う。うまく接することができなかったかもしれないけれど、今回のことは自分の中で確実にプラスになったと思う。二度とないといってもいい体験をさせてもらえて本当によかったと思う。

誠心会のたくさんの方々と話ができ面白かった。恥ずかしがらずに接することができてよかった。お年寄りの方のほうから話しかけてくれたのでとても話しやすかった。お年寄りの人たちと交流することもいいことだなあと思った。本当に楽しい時を過ごせたと思う。

- 生徒会での取組（あいさつ運動、募金活動、花いっぱい運動等）



清掃活動(生徒会文生部)



あいさつ運動(生徒会文生部)



募金活動(生徒会本部)

本校では生徒会文生部を中心として毎月1回あいさつ運動の実施している。あいさつ運動のかたわら、校舎の清掃活動も実施している。また、生徒会本部ではユニセフ募金、赤十字募金、共同募金の3回の募金活動を実施している。生徒数が少ないので募金の額が少ないがすべての生徒が募金に協力している。

また、花いっぱい運動も生徒会が主催し、毎年6月ごろに実施している。夏休み中の水やりも自主的に当番を決めて行っている。



花いっぱい運動

4 研究の成果と今後の課題

研究の成果として、以下のことが明らかになった。

- 「道徳教育全体計画」「学年の指導計画」及び「道徳の内容項目と教育活動等の関連表」を作成したことにより、全教育活動を通して進める心の教育の内容、指導の体制、指導の日程が明らかとなった。
- これまで特別活動や総合的な学習の時間などにおいて取り組んできた体験活動が、生徒の心の成長をはぐくむ取組として意識され、位置付けられた。そして、全教育活動を通して「心の教育」を進めるという視点が明らかになった。
- 体験活動と道徳の時間をつないだ実践を各学年で展開したことによって、生徒が体験活動の意義を深く理解し、また、体験を通じて得た成果を深く認識したり、生き方として実践しようとしたりする態度につながった。
- 「心に響く道徳の時間」という視点で指導の工夫を進める中で、生徒が道徳的価値について深く考え

ようとしたり、生き方や行動とつなげて考えたりするようになった。そして、「心に響く道德の時間」を目指して教材開発や授業展開に対する工夫が進んだ。

また、本研究を通して次のことが課題として挙げられる。

- 「心に響く道德教育」が生徒の実態に合い、より実践的な計画となるよう、検討、改善を継続的に進める必要がある。
- 今後とも、豊かな体験と道德の時間を効果的につないで実践を進めるため、教科指導やボランティア活動、自然体験活動などのさまざまな体験活動と道德の時間との関連を考えた、幅広い視野に立った学習計画と体制の中で取組を進めていかなければならない
- 積極的に授業を公開したり、通信などで学校における道德教育を発信したりすることなどを通して、さらに家庭や地域との連携を進めていくことが大切である。
- 心に響く道德の時間の指導方法・指導形態、ねらいに迫るための発問や資料の提示など、さらに改善するための研究を進めていく。